

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 12 月 12 日 (2019.12.12)

【公開番号】特開 2019-180732 (P2019-180732A)

【公開日】令和 1 年 10 月 24 日 (2019.10.24)

【年通号数】公開・登録公報 2019-043

【出願番号】特願 2018-74535 (P2018-74535)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 10 月 29 日 (2019.10.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

識別情報の可変表示を行い、識別情報の可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示された後、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

演出を実行可能な演出実行手段を備え、

前記演出実行手段は、

識別情報の可変表示に対応して、演出用識別情報の可変表示を実行可能な演出用可変表示実行手段と、

前記有利状態に制御される場合と前記有利状態に制御されない場合とで共通に実行可能な共通演出を実行可能な共通演出実行手段と、

前記共通演出を実行した後に、前記有利状態に制御されるか否かを報知する報知演出を実行可能な報知演出実行手段と、を含み、

前記共通演出の実行途中において前記特定表示結果が導出表示された後に、前記特定表示結果が導出表示されたことを示す所定演出を実行する第 1 パターンと、前記共通演出の実行途中において前記特定表示結果が導出表示された後に、前記共通演出を継続して実行し、前記報知演出を実行する第 2 パターンとにより演出を実行可能であり、

前記共通演出の実行中に演出識別情報の可変表示を行わない、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

手段 A の遊技機は、

識別情報の可変表示を行い、識別情報の可変表示の表示結果として特定表示結果が導出表示された後、特定領域を遊技媒体が通過したことにもとづいて遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

演出を実行可能な演出実行手段を備え、

前記演出実行手段は、

識別情報の可変表示に対応して、演出用識別情報の可変表示を実行可能な演出用可変表示実行手段と、

前記有利状態に制御される場合と前記有利状態に制御されない場合とで共通に実行可能な共通演出を実行可能な共通演出実行手段と、

前記共通演出を実行した後に、前記有利状態に制御されるか否かを報知する報知演出を実行可能な報知演出実行手段と、を含み、

前記共通演出の実行途中において前記特定表示結果が導出表示された後に、前記特定表示結果が導出表示されたことを示す所定演出を実行する第1パターンと、前記共通演出の実行途中において前記特定表示結果が導出表示された後に、前記共通演出を継続して実行し、前記報知演出を実行する第2パターンとにより演出を実行可能であり、

前記共通演出の実行中に演出識別情報の可変表示を行わない、

ことを特徴とする。

さらに、手段1の遊技機は、可変表示を行い、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示された後、特定領域（例えば、作動ゲート007IWO17）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機であって、演出を実行可能な演出実行手段（例えば、演出制御用CPU120）を備え、演出実行手段は、有利状態に制御される場合と有利状態に制御されない場合とで共通に実行可能な共通演出（例えば、スーパーリーチ演出B）を実行可能な共通演出実行手段（例えば、演出制御用CPU120におけるステップ007IWS804，S806，S808，S827，845，S883，S888，S904を実行する部分）と、共通演出を実行した後に、有利状態に制御されるか否かを報知する報知演出（例えば、当否報知演出）を実行可能な報知演出実行手段（例えば、演出制御用CPU120におけるステップ007IWS804，S827，845，S883，S888，S904を実行する部分）とを含み、共通演出の実行途中において特定表示結果が導出表示された後に、特定表示結果が導出表示されたことを示す所定演出（例えば、図8-47（E）に示す突右演出）を実行する第1パターン（例えば、変動パターン8に従ってスーパーリーチ演出B3を実行する場合には、図8-46（D）に示すように、例えば、第1特別図柄表示装置4Aにおいて大当り図柄が停止表示されてスーパーリーチ演出B3が途中で終了し、図8-47（E）に示すように、突右演出が実行される）と、共通演出の実行途中において特定表示結果が導出表示された後に、共通演出を継続して実行し、報知演出を実行する第2パターン（例えば、変動パターン7に従ってスーパーリーチ演出B2を実行する場合には、図8-44（D）に示すように、スーパーリーチ演出B2の途中で、例えば、第1特別図柄表示装置4Aにおいて大当り図柄が停止表示され、その後、図8-45（F）に示すように、大当り報知演出が実行される）とにより演出を実行可能であることを特徴とする。そのような構成によれば、演出効果を高めることができる。